教員・学生へのアンケートによるオンライン授業の現状分析

Analysis of the current state of online lectures by questionnaires to teachers and students

植村八潮*　山崎航*　小田佳織*　長谷川さくら*
Yashio UEMURA*　Wataru YAMAZAKI*　Kaori ODA*　Sakura HASEGAWA*

*専修大学 文学部
*School of Literature, Senshu University

要旨

COVID-19 の影響で大学では短期間にオンライン授業が導入された。学生・教員の不慣れや，双方のコミュニケーション不足から，多くの課題が残されている。学生側の不満と教員側の見解の違いによって，オンライン授業の問題点・不備への認識差があり，ひいては改善策に対する誤りが生まれるのではないか。また，学生自身の学習意欲・態度や講義の性質によって，オンラインでの効果や評価が変わるのではないか。この点を明らかにするために，学生自らが主体となって教員･学生へのアンケートを行った。調査結果を中心に報告する。

Abstract:

Due to the influence of COVID-19, online classes were introduced in a short period of time at the university. Many issues remain due to the unfamiliarity of students and teachers and lack of communication. Differences in views between students and teachers may also lead to differences in perceptions of the problems of online lessons. In order to clarify this point, students took the initiative in conducting a questionnaire survey of teachers and students.

1. はじめに

1.1　研究背景

1.1.1　オンライン授業の導入経緯

新型コロナウイルス感染症の影響拡大で，2 月 27 日に，安倍首相が全国の小中学校, 高校等に臨時休校を呼びかけ, 3 月 2 日に全国一斉休校が始まった。春休み期間だった大学は，キャンパスへの入構を制限し，新年度からの授業対応を検討し，大半の大学が 2020 年 4 月からの授業を「オンライン授業」[1]に切り替えた。開始時期は大学の規模やシステム対応により，多少の違いがあり，4 月より直ちにオンライン授業で開始した大学もあれば，5 月中旬まで授業開始を延期して対応した大学もあった。

専修大学では，5 月 11 日から授業を開始することとし，教員と学生双方に対して，オンライン授業の方法，利用するツールの説明などを，主にウェブ掲示を中心に行った。

オンライン授業は，放送大学や通信制大学等で採用されているが，対面授業を中心に行ってきた大半の大学にとって，全面的な導入は初めてのことである。一部，授業の開始を繰り下げたとはいえ，やむを得ないことであるが，大きな教育方法変更に比較して，導入に向けた準備期間は短いものである。

1.1.2　ゼミ論研究でのテーマの決定

(1) 植村ゼミでのゼミ論の取り組み

文学部ジャーナリズム学科の 3 年生は，2 年生からゼミに参加している。植村ゼミナールでは 3 年生は， 毎年数名のグループに別れ，自主的に調査テーマを決めてゼミ論に取り組んでいる。今年の各グループ共通のテーマは,「新型コロナウイルス感染症の影響」とした。

5 月の授業開始とともにオンラインで議論を進め，6 月中

[1] 「オンライン授業」については，文部科学省『大学設置基準』における第 25 条 2 項で「大学は，文部科学大臣が別に定めるところにより，前項の授業を，多様なメディアを高度に利用して， 当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」 としている。

旬までに大方のテーマが決まった。そのうちの一つが，本稿の元になった「オンライン授業における学生・教員双方の意識と課題」である。ちなみに後の 2 つは，「コロナ禍による大学祭開催中止の決定経緯からみる大学本部と学生の関係性」，「近代の感染症報道とコロナ報道の比較分析」である。

（2）調査のための疑問・仮説

「オンライン授業における学生・教員双方の意識と課題」の班は，調査方法として学生と教員に対してアンケートを行うことした。テーマ決めの議論を続ける中で，研究目的と方法を決めるに至った疑問や仮説は，以下のとおりである。これらは，いずれも，学生自らの経験に基づく意見である。

①大学生は，授業に関して，大学からの情報だけでなく，学生相互の情報交換にも大きく頼っている面がある。休講情報は大学からのプッシュ情報で確認するが，ポータルサイトのプル情報を入手しない学生も多い。キャンパスに登校しないことから，情報不足に陥っている学生もいるのではないか。

②科目毎の教員の授業運営が異なっていて，学びにくいと感じることもある。やりにくいと感じても，教員に要望を伝えるには遠慮がある。学生の声を反映する機会や方法がない教員もいる。

③オンライン授業を受講していると，どうしても他のことが気になってしまう。今までも授業中にスマートフォンで，授業に関係のないことをしていたが，オンライン授業は，教員の目もないことから，サボりがちになりそうである。

④アンケート項目を検討している段階で，大学からのアンケートが行われた。これに対して，調査段階で，結果を教えてくれるのか，明記されていなかったこともあり，みんな（友人や他の学生）が，どう感じて，どう思っているのか知りたいと考えた。

⑤同様に大学からのアンケートでは，オンライン授業でどのように対処したかなど，知りたい項目が抜けている。

⑥大学からではなく，学生からアンケートを出すことで，気安い気持ちで答えてくれて，正直な意見が聞けるのではないか。また，互いの不安やコミュニケーション不足を解消する一助とならないか。

以上のような検討を得て，アンケート実施を研究手法として行うことにした。

（3）関連したアンケート

文学部では，文学部カリキュラム委員会が，「学生のオンライン授業環境の調査」を目的に，パソコンの保有やインターネットの契約，授業を受ける環境などを調査項目として，「オンライン授業受講に向けたネット環境調査（文学部）」を実施した。4 月 18 日～30 日までの期間に学内ポータルサイトのアンケート機能を利用した。

また，アンケート項目を検討している段階で，専修大学が，本学の学部学生全員を対象に「オンライン授業に関するアンケート調査」を実施した。「オンライン授業の現状を把握し，その質の向上を図ること」を目的としたとあり，6 月 29 日から 7 月 7 日までの期間に学内ポータルサイトを利用して行われた。主な設問は，現在の居住地，インターネット環境，オンライン授業のメリット・デメリット，コロナウイルス流行・オンライン授業全般に対する意見・不満などである。回答は専修大学生 7,307 名で，回答率は 41.8％であった。

このアンケートは学生を対象としたものであり，教員へのアンケートは存在しない。しかしオンライン授業の本質を知るためには教員のオンライン授業への意識を知ることが不可欠とも考えた。また，先に述べたように，同じ学生という立場から「オンライン授業の授業態度」や「コロナ騒動での専修大学の対応への不満」について，より忌憚のない意見を募ることができると考えた。

1.2　研究目的

やむを得ないこととはいえ，短期間でオンライン授業が導入されたことで，学生・教員双方の不慣れやリテラシー不足から，多くの課題が存在すると考えられる。また，新聞やネットニュース，SNS を通じてオンライン授業に対する学生の不安や大学に対する不満が取り上げられている。オンラインによって孤立し，相談相手も少ない学生に対して，不安や不満を煽る傾向がある。

そこにきて，従来の対面授業に比べ，学生と教員のコミュニケーション不足が生じ，さらに学生側の不満と教員側の授業への見解の乖離から，オンライン授業の問題点や対策の不備が生まれている可能性がある。さらに，学生自身の学習意欲や講義の性質によって，オンライン講義に対する態度や成果が大きく変わるのではないかと仮定した。

そこで本研究では，はじめに，当事者である専修大学の学

生と教員の両者を対象に，従来の対面型授業とオンライン授業に関するアンケートを行い，両者の授業に対する認識の差を明らかにすることを目的とする。その結果から今後コロナウイルス第２波到来や緊急事態宣言が発令されるなどオンライン授業を余儀なくされた際に，授業が円滑に行えるように，オンライン授業の問題点，学生としての改善点を明らかにする。今後，オンライン授業への向き合い方・理解を深め（リテラシーの醸成），授業が円滑に行われるための一助としたいと考える。

2. 研究方法

本研究ではオンライン授業への学生の向き合い方やと教との認識差異を明らかにするために専修大学に所属する学生・教員を対象に，従来の対面型授業とオンライン授業に関してアンケートを実施した。

アンケートはグーグルフォームにて回収した。質問項目は選択式，記述式合わせて学生用アンケートが 23 項目，教員用アンケートが 18 項目である。調査期間は 7 月 21 日～8 月 10 日とした。

学生は全在籍者 17,460 人を対象に， LINE や Twitter などの SNS を活用，友人知人を通して，拡散して依頼した。その結果，学生 683 人（全学部生の 3.9%）が回答を寄せた。ただし，全学生に対してアンケートを偏りなく，有効に依頼する方法がなく，結果に偏りが含まれる可能性がある。また，アンケートの依頼メールが届いた学生数は不明である。アンケート対象の全学生数に対して，回答数が少ないのは，手法上，やむを得ないと考える。むしろ，当初の想定以上の回答数で，自由記述には熱心な意見が寄せられた。

一方，教員にはシラバスにメールアドレスを記載しており，かつ送信可能だった 174 人に送信した。また教員には授業などを受講している学生に本アンケートを紹介していただくようお願いした。教員 50 人から回答をいただいた（回答率 28.7%）。

回収したアンケート結果は選択式のものはクロス集計を行い，記述式の物は KH コーダーを使用し頻出単語などから分析した。

今回行った学生向けアンケート調査は「オンライン授業に関する質問」，「対面授業に関する質問」，「対面授業とオンライン授業との比較」，「オンライン授業や大学の対応への意見・不満」の計 4 セクションに分かれている。セクションごとに集計を行っているが，本稿では，「対面授業に関する質問」はクロス集計して報告する。

3. 学生アンケートの調査結果

3.1 オンライン授業に関する質問

3.1.1 オンライン授業を受講した感想（複数回答可）

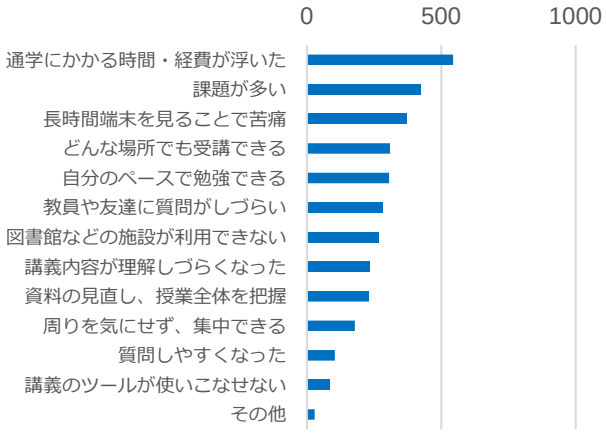

図 1 受講した感想 (n=676)

回答者の 80%が「通学にかかる時間・経費が浮いた」を選択した。さらに「課題が多い」や「長時間端末を見ることが苦痛」というような不満の声も多い一方で「どんな場所でも受講できる」「自分のペースで勉強できる」といったような新しい勉強の仕方を模索し，対応している意見も多かった。

3.1.2 オンライン授業は好きか嫌いか

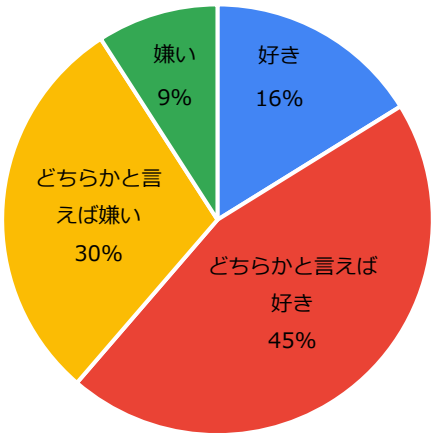

図 2 オンライン授業の好き嫌い (n=680)

オンライン授業は「好き」か「嫌い」かを聞いたところ，「好き」が 16%，「嫌い」が 9%で両極が全体の四分の一で，「どちらかと言えば好き」と「どちらかと言えば嫌い」の中間的意見が全体の四分の三を占めた。

3.1.3 「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた理由（複数回答可）

グラフでは，授業内容に関するものは赤色，授業以外の環境関連を緑色にした。

環境関連である「登校しなくても済む」は有効回答者の90%が選択し，「時間・場所制限がない」は68%の回答者が選択した。回答者がオンライン授業を好んでいる理由は授業内容よりも，授業を受けるためにかかる時間・場所などが削減されていることが大きいと考えられる。

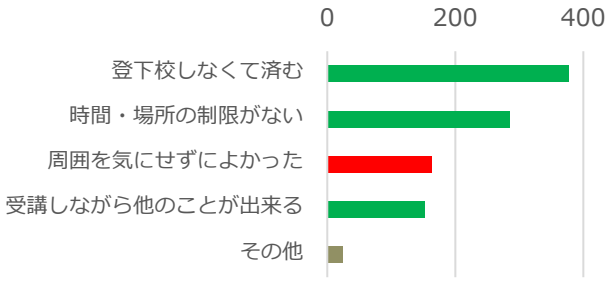

図 3 好きな理由 (n=417)

3.1.4 「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」と答えた理由（複数回答可）

グラフでは，授業内容に関するものは赤色，授業以外の環境関連を緑色にした。嫌いな理由として，環境関連（緑色）の「友達に会えない」や「図書館などが使えない」も高いが，「講義内容への不満」も多く選択されている。

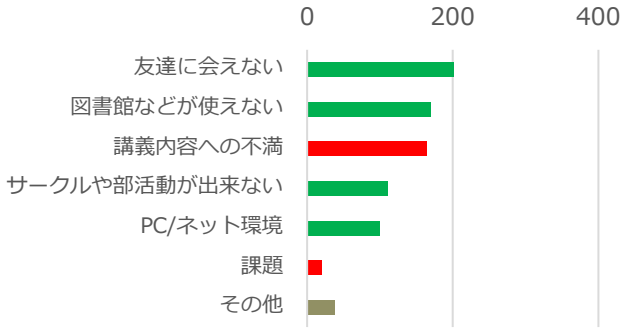

図 4 嫌いな理由 (n=266)

3.1.5 受けやすい授業スタイル（複数回答可）

受けやすい授業スタイルでは，「録音を聞き，その後課題を行う」が最も高かった。ただし，学生にとって「受けやすい授業」は，「学びやすい」といった教育評価と必ずしも一致しない点に注意が必要である。

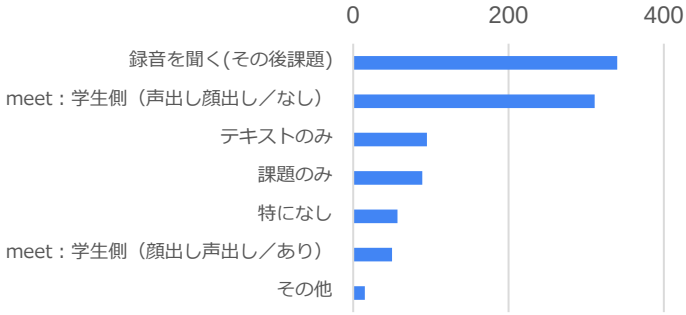

図 5 受けやすい授業スタイル (n=677)

3.1.6 受けづらい授業スタイル（複数回答可）

受けづらい授業スタイルでは，「テキストのみ」と「meet などを使い，学生側も顔出しあり，声出しあり」が最も高かった。

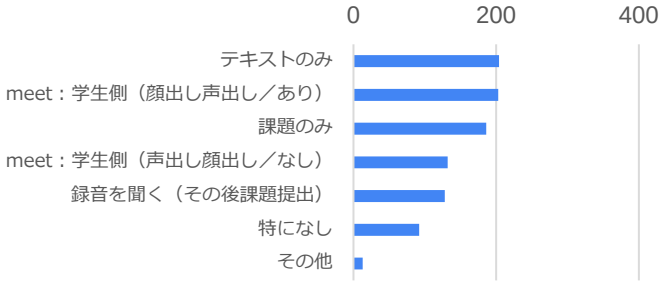

図 6 受けづらい授業スタイル (n=676)

3.2 対面授業とオンライン授業の比較

3.2.1 オンライン授業になってからの授業態度と出席率

オンライン授業になってからの授業態度について，「スマホを扱うなど授業に関係ないことをする時間が増えたなど」を具体例にあげて質問した（図 7）。「悪くなった」と回答した学生が 34%で，「良くなった」と回答した学生 15%の倍以上となった。「変化なし」がほぼ半数である。

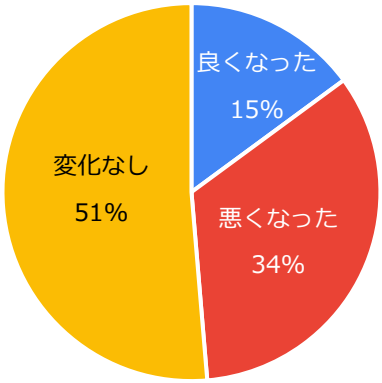

図 7 授業態度の変化 (n=637)

一方，オンライン授業になって授業への出席率について聞いたところ，出席率が良くなった学生は 33.0%で，悪くなった学生 8.0%のおよそ 4 倍の結果となった。

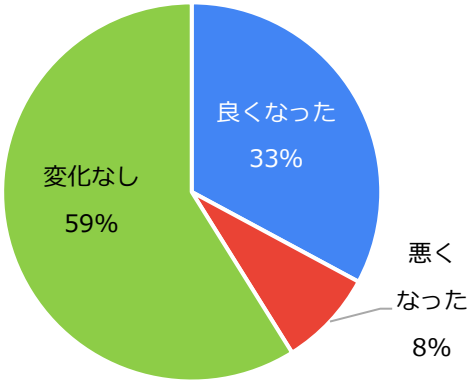

図 8　出席率の変化 (n=630)

3.2.2　「授業中に授業と関係ないことをした頻度」と「オンライン授業中の授業態度の変化」

従来の対面授業の授業中に，スマホをいじったり，他の本を読んだり授業と関係ないことをした頻度について，5 段階で質問した。その結果，「頻繁にしていた」20.0%，「時々していた」36.0%，「少ししていた」21.0%，「ほとんどしていなかった」14.4%，「全くしなかった」9.0%となった。「頻繁」と「時々」で，半数を超えていた。

表 1 に「授業中に授業と関係ないことをした頻度」と「オンライン授業中の授業態度の変化」をクロス分析した結果を示す。

表 1　授業態度の変化（頻度別%）

授業と関係ないことをした	頻繁	時々	少し	ほとんどなし	全くなし	全体
良くなった	11.0	14.6	18.8	9.8	25.9	15.0
変わらない	32.0	52.0	51.1	72.8	53.7	51.0
悪くなった	57.0	33.4	30.1	17.4	20.4	34.0
有効回答数	128	225	131	92	54	630

授業中に授業と関係ないことをした頻度の高い学生は，「良くなった」11.0%，「変わらない」32.0%に対して，「悪くなった」が 57.0%と一番高く，また，他の頻度と比較しても「悪くなった」と答えた割合が一番高い結果となった。オンラインという環境が拍車をかけ，より授業態度が悪くなってしまう傾向がある。

一方，対面授業の頃から授業態度が良い傾向の学生はオンライン講義でも学ぶ姿勢は変わらないか，良くなる傾向がある。なかでも授業に関係のないことを「全くしていなかった」学生は，「良くなった」と回答した学生が 25.9%と全グループの中でも最も多く，もともと授業態度がよいことから，「変わらない」と回答した学生も 53.7%と多い結果となった。オンライン授業でも積極的に参加したことがうかがえた。

3.2.3　対面授業での「サボり」とオンライン出席率の変化

従来の対面授業で，出席できるにも関わらずしなかったこと（俗にいう「サボり」）について，半期科目ごとの回数を 5 段階で回答を求めた。その結果，全くサボらなかった平均 0 回の学生が 54.6%と半数を越えたものの，あまりサボらなかっていない平均 1～2 回の学生が 34.3 と次に多く，まあまあサボっている平均 3～4 回の学生が 9.4%，よくサボった平均 5 回以上の学生が，1.7%となった。

表 2 に「サボり」回数と「オンライン授業の出席率の変化」をクロス集計し，サボりの頻度別オンライン授業の出席率の変化を示した。

表 2　出席率の変化（回数別%）

授業のサボり	平均 0 回	平均 1～2 回	平均 3～4 回	平均 5 回以上	全体
良くなった	20.9	43.3	63.4	36.4	32.9
変わらない	75.6	45.6	18.3	18.2	58.8
悪くなった	3.5	11.1	18.3	45.4	8.3
有効回答数	340	215	60	11	626

対面授業での「サボり」の回数がもともと少ない学生は，オンライン授業になっても出席率が下がりにくく，むしろ熱心に参加する傾向がある。平均 3～4 回の「まあまあサボった」学生は，「良くなった」と回答した割合が 63.4%と最も高い結果となった。そして対面授業の「サボり」回数が増えるのに比例して，授業の出席率が「悪くなった」と答えた学生の割合は高くなる傾向がうかがえた。

3.2.4　学費に見合う授業を受けられていると思いますか

オンライン授業が「学費に見合っていない」とする学生が 65%と半数を超えており，「どちらともいえない」とする学生が 29%で，「学費に見合っている」とした学生は 6%にすぎない結果となった。

表 3 に「学費に見合う授業を受けているか」と「授業中に

授業と関係ないことをした頻度」をクロス分析した結果を示した。

表 3　授業態度別学費に見合った授業か（回数別%）

	頻繁	時々	少し	ほとんどなし	全くなし	全体
どちらともいえない	22.9	27.9	33.1	29.5	30.4	28.4
見合っている	2.3	5.1	7.2	6.3	10.7	5.6
見合っていない	74.8	67	59	63.2	55.4	64.9
有効回答数	131	234	138	94	54	651

オンライン授業では，授業中に授業と関係ないことを「頻繁にしていた」学生ほど，「学費に見合う授業を受けられていると思わない」とする割合が一番高く，逆に「学費に見合う授業を受けられていると思う」とする割合が一番低い結果となった。

一方，授業中に授業と関係ないことを「全くしていなかった」学生は，「学費に見合う授業を受けられていると思わない」とする割合が一番低く，「学費に見合う授業を受けられていると思う」とする割合が一番高い結果となった。

3.2.5　対面とオンラインでは，どちらが授業に参加しやすいか

参加しやすい授業として，オンライン授業を選んだ学生が対面授業を選んだ学生の 1.5 倍近くとなった。

先の「オンライン授業は好きか嫌いか」での結果，「好き」「どちらかというと好き」が 6 割を超えたことと，同様な傾向となった。

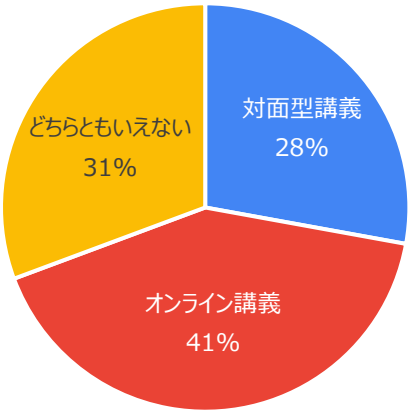

図 9　授業の参加しやすさ (n=639)

3.2.6　今回のコロナ騒動への専修大学の対応は十分だったと言えますか（n=671）

「十分だった」17.9%，「不十分だった」35.6%，「どちらともいえない」40.2%，「わからない」6.3%という結果となった。

「不十分」とした理由を自由記述の中から，KH コーダーを使用して，25 の頻出単語を抽出した。その結果，「大学からの連絡が遅かった」と，「学費・施設費・給付金」についての不満が多く寄せられた。「連絡が遅かった」とする回答や「学費などへの不満」は，「他大学と比べて授業が対面かオンライン化の連絡が遅かった」や「他大学は全学生に給付金を一律配布を行っているが専修大学は一部にしか給付していないから」などに代表されるように，他大学と比較した意見が高い割合を占めていた。ただし，他大学の情報のソースは明らかではなく， SNS などで流れたニュースと比較しての印象と考えられる。

その一方で，「初めてのことに対処し，学生のことを考えてくれた」，「対面授業でクラスターが起きることを防げた」など，大学の対応に肯定的な意見も多く見られた。

他にも「まだ対処の正解が分からない」，「良い点も悪い点もあり，どちらともいえない」という意見もあった。

3.3　その他の学生への質問・自由記述

本アンケートへの意見やオンライン授業に対して思うところなどを書く自由記述欄を設けたところ，167 件の有効回答があった。「オンライン授業は好き嫌い」の結果に反して「自由記述」は不満と不安の声が多かった。

ここではいくつかの声を抜粋して紹介するのにとどめる。

「私は 4 月に入学した 1 年生です。コロナの影響で高校の卒業式もなく，大学の入学式もなくオンライン授業が始まって，いまだに自分は大学生だという実感がありません。初めは授業についても教員側，学生側お互いに手探りだし，こんな生活でもしょうがないと思っていたのですが，正直なところ，今は小学校も中学校も高校も再開して，社会人の人たちも毎日楽しそうに飲み会をして酔っぱらっているのに，なぜ自分たちはキャンパスにも行けず，授業→課題の生活を繰り返しているんだろうと感じています。完全な僻みですが，今まで外に出て過ごしていた「日常」がどれほど素晴らしかったかと痛感しています」

「大学のキャンパスで，同じゼミの人や先生にもあったことがなく，サークル活動も一度もできていない。授業も一日中パソコンの前にいる。こんな日々から抜け出して早くキャンパスに行きたいと強く願っています」

「課題が多く寝れない日が何回かあった。体調が悪い日に連絡手段がない先生も何人かいること。評価基準が明確でない授業も多い」

「今の状況で大学に通う事は自分にとっても周囲の人間にとってもリスクが高いので，この形式の導入はありがたく思った。色々不便を感じる事もあるが，こちらも努力して慣れていきたい」

「オンラインに不満がある一方で，オンラインであるのは仕方ないとも思うので自分自身もどうすればより良いオンライン授業を受けれるか考えたいと思います」

「一年生なので，今までの授業との比較が必要な質問には答えることができませんでした」

4. 教員アンケートの調査結果

メールにて調査依頼を行うことのできた 174 人のうち，教員向け質問紙調査では 50 人から回答をいただき，回答率は 28.7%であった。

教員向けアンケートでは「対面授業についての質問」，「オンライン授業についての質問」，「オンライン授業と対面授業の学生における変化」，「オンライン授業での学生についての質問」の計 4 セクションに分けて質問をした。ここでは，オンライン授業について報告する。

4.1 オンライン授業についての質問

オンライン授業を実際に行った感想や，やりやすさ，オンライン授業の際の授業スタイル，オンライン授業のメリット・デメリット等について質問した。

4.1.1 オンライン授業はやりやすいか

「やりやすい」または「まあまあやりやすい」と答えた割合は 51%，「不安である」「すこし不安である」と答えた割合は 24%であった。

自由記述から，チャットによるリアルタイムでの質問の活発化や授業中に私語の注意をしなくて済むようになったことが関係していると考えられる。また，大学まで通勤する必要がなくなったことで，場所を選ばずどこでも授業ができることも「やりやすい」または「まあまあやりやすい」と答えた割合に反映されている。

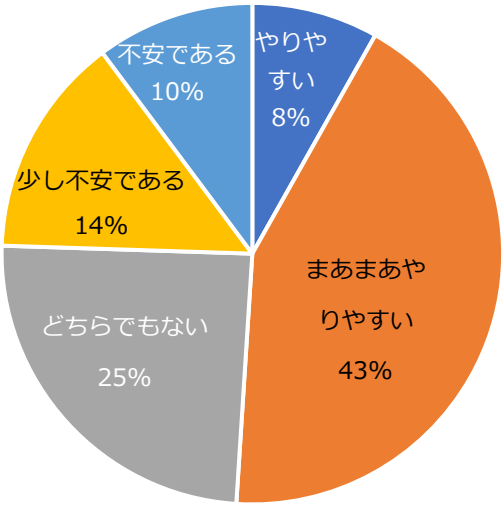

図 10 オンライン授業はやりやすいか (n=49)

4.1.2 今後もオンライン授業を行いたいと思うか

「併用したい」が半数を占める結果となった。

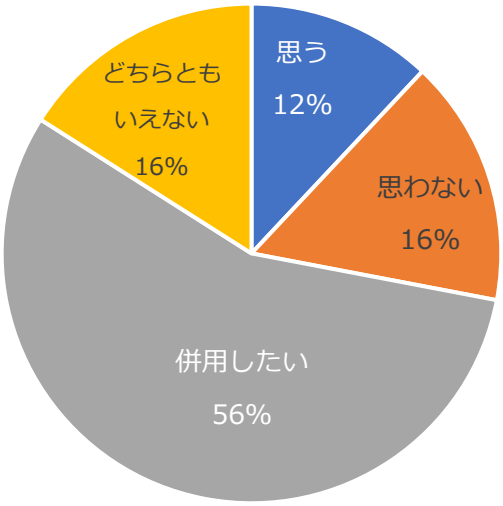

図 11 今後もオンライン授業を行いたいと思うか (n=50)

4.1.3 最も授業しやすかったスタイル

最も授業しやすかったスタイルを 1 つ選ぶとすると，「meet などを使い，学生側も顔出しあり」はおよそ 35%，「あらかじめ録音・録画されたものを配信（その後課題など）」はおよそ

22%となった。

学生の顔出し声出しは，一番高い回答となったが，学生アンケートでは，最も不人気な授業スタイルであった。

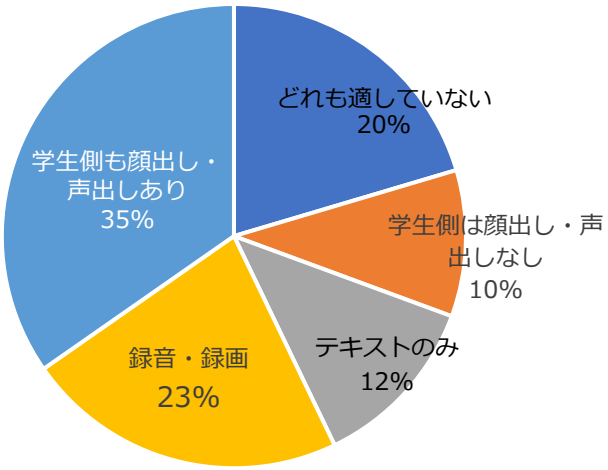

図 12 講義しやすかったスタイル (n=49)

4.1.4 オンライン授業のメリット

オンライン授業のメリットについて記述式で回答を得た。学生側の「オンライン授業が好きな理由」にも選ばれていた「移動時間の削減」が 12 件と最も多い結果となった。「受講場所の自由化」11 件についても，学生同様，授業を受けるためにかかる時間・場所などが削減されたことについて教員側もメリットと捉えていることが分かった。

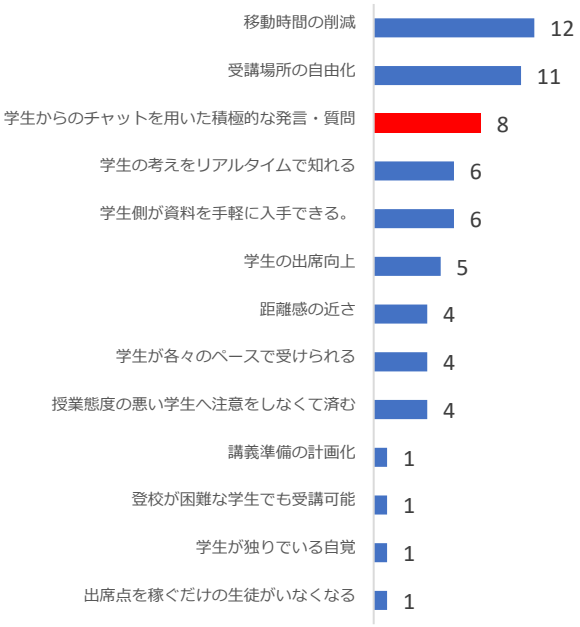

図 13 オンライン講義のメリット (n=48)

授業に関して「学生からのチャットを用いた積極的な発言・質問」が 8 件あげられている。教室における対面授業では，学生が挙手して発言することは，多くはないだろう。発言する機会が少ない学生がチャットを用いることで気軽にコメントできるようになったことが考えられる。ただし，学生のアンケート結果では，オンライン授業になって質問しやすくなったという意見は少数である。

4.1.5 オンライン授業のデメリット

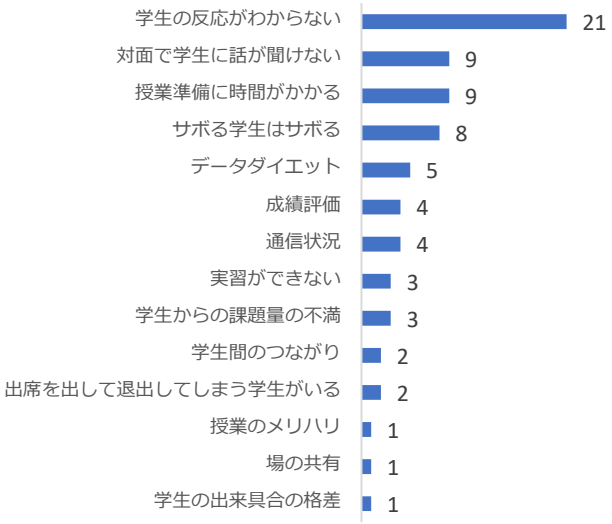

図 14 オンライン講義のデメリット (n=48)

「学生の反応がわからない」とした回答が一番多く 21 件，「授業準備に時間がかかる」及び「対面で学生に話が聞けない」という回答は 9 件となった。学生側は，課題の量が多いことを不満としたが，教員側も授業準備にかかる時間量への不満や授業スタイルの不安を抱えていたことがわかる。また，「サボる学生はサボる」や「出席を出して退出してしまう学生がいる」，「学生の出来具合への格差」の意見から，対面でなくなってしまったために，授業態度や進捗に問題がある学生に教員側が手を差し伸べられなくなってしまったこともデメリットとしてあげられていた。

4.1.6 例年の対面授業に比べオンライン授業で学生の履修者数は変化したか

「変わらない」という回答は 65%，「増加した」という回答は 29%，「減少した」という回答は 6%であった。「増加した」は，受講者を抽選で絞らず，申請した学生全員が受講可能となった授業があったことも，要因の 1 つと推測する。

4.1.7　学生の授業出席率は対面授業の時と比べて変化したか

授業出席率の変化については，回答数 49 名中「増加した」が 32 名と多くを占め，変化なしが 16 名，減少したが 1 名となった。

4.2　自由記述

「学生がオンライン授業を受ける際に必要な心構えがございましたらご教示ください」については，　多くの先生方から大切な指摘をいただいた。

5. 考察

当初，研究目的として，「学生側の不満と教員側の見解の違いによって，オンライン授業の問題点・不備への認識差があり，ひいては改善策に対する誤りが生まれるのではないか」と仮説を立てて，学生・教員両者へのアンケートを実施することとした。しかし，今まで述べてきたように，この点については，明確にできてはいない。その理由として，アンケート設計が十分に検討できていない点がある。共通する問題を見つけ，双方のとらえ方を抽出できるような質問項目を設けるべきだが，両者の意識を聞く問題がうまく盛り込めなかったと考える。

教員がやりやすいと考える「学生の顔出し，声出し」が，学生から不人気である点，チャットで学生の発言を得やすいとした教員のとらえ方に対し，学生側は，必ずしも質問しやすくなったとは捉えていない点，など，いくつか指摘できるが，本質的な差異と呼べるほどのものは見つからなかった。

むしろ，本調査の特徴としては，学生の通常の授業態度を分析項目に加えた点にあると考える。

今回のアンケートでは，従来の対面授業の授業中に，スマホをいじったり，他の本を読んだり授業と関係ないことをした頻度と，従来の対面授業で，出席できるにも関わらずしなかったこと（俗にいう「サボり」）について聞いて，これとのクロス分析をいくつか行っている。

以下，この点に関して，ゼミ内での議論を元に考察する。

対面授業中に授業と関係ないことをした頻度の高い学生は，オンライン授業では，授業態度が悪くなる傾向があり，対面授業の頃から授業態度が良い傾向の学生はオンライン講義でも学ぶ姿勢は変わらないか，良くなる傾向となった。また，「よくサボった」学生のおよそ半数が，出席率が悪くなったと回答している。オンライン授業は学生の授業態度の二極化を促進したと考えられる。

「まあまあサボった」学生の出席率が向上した理由について，学生の体験的な意見を紹介する。これにはサボりの回数による意識の違いとオンライン授業の運営との関係が考えられるという。

「まあまあサボった」学生の中には，「単位が取れる範囲で楽をしたい」と考える学生が比較的多く存在する。また，対面授業時の様に学生同士で情報収集をしながら程よく楽をする，という授業の受け方をする傾向もある。しかし，オンライン授業では，成績評価方法が変更され，学期末試験を中止し，出席と毎回のリアクションペーパーだけで評価するとした授業が増えた。また，毎回の課題については口頭連絡のみのものがあった。この結果，オンライン授業では，出席が以前にも増して単位取得に直結している受け取った。加えてオンラインによる出席は，対面授業での出席より時間的にも心理的にも容易である。教室での情報収集も難しくなったことから，結果として「まあまあサボった」グループの出席率が向上したのではないか。

一方「よくサボった」学生は元より「単位を修得したい」という意識が比較的薄く，そのためオンライン授業となってもあまり改善することがなかったのではないかと推測できる。しかし，この受け取り方については，「よくサボった」グループの有効回答数は 11 件と，該当学生のごく一部の回答であることに留意する必要がある。

次に，学費に見合う授業を受けられていると思うかという回答についてである。

授業中に授業と関係ないことを「全くしていなかった」学生は，「学費に見合う授業を受けられていると思わない」とする割合が一番低く，「学費に見合う授業を受けられていると思う」とする割合が一番高い結果となった。前述したように，対面授業時に授業態度が良好であった学生は，オンライン授業でも積極的に授業に参加している。オンライン授業での満足度も高く，学費に見合うとした意見が多い傾向との関連がうかがえる。

一方，授業中に授業と関係ないことを「頻繁にしていた」グループは，「学費に見合う授業を受けられていると思わない」とする割合が一番高く，「学費に見合う授業を受けられていると思う」とする割合が一番低い結果となった。このグル

ープには対面授業よりも学習態度が悪くなった学生が半数以上おり，そのためオンライン授業に対して積極的に学んでいなかった学生も多いと考えられる。結果としてオンライン授業で望んだ学習成果が得られず，学費に見合うとは思わない，という意見が他のグループよりも多くなってしまったのではないかと考えられる。

なお，従来，対面授業を受けている頃に「学費を払って授業を受けている」という意識はあったか，という質問については，「考えていた」が 50.0%，「考えたこともある」34.0%，「考えたことはない」16.0%という結果であった。コロナ禍が経済不況を引き起こしたこともあり，学費に対する意識を高める結果となったと言えよう。

教員にとっては，「学費に見合っている」とした学生は 6%であることは，教員にとって厳しい結果とも言えるが，「見合うか否か」は学ぶ意識にもある，という教員と学生の双方にとってあらためて考えさせられる結果でもある。

最後に，教員アンケートにおける履修者数の変化と出席率について，学生の意見を紹介しておく。

例年であればキャンパスやサークル，SNS 等を通じて知り得た従来の授業状況や難易度も，オンライン授業下では共有しづらかったという。このことも履修者数の変化に影響していると考えられる。

一方で，「変わらない」という回答は，前期履修変更期間が設けられなかったこととの関係も指摘された。例年であれば，前期授業開始から一週間は前期履修変更期間が設けられ，その間に学生は履修の修正が行える。今年は学事暦の大幅な遅れを取り戻すために前期履修変更期間は設けられなかった。そのため履修登録期間以降は履修を中止する以外に受講を停止する方法はなく，授業内容が想定していたものとは異なっていても，学生はそのまま受講し続けたことがうかがえる。

出席率向上には，オンライン授業のメリットでもあげられたように，移動せず，場合によっては時間を気にせず，どこでも受講できることが関係している。また，前期授業では試験が廃止されたため，課題提出や授業の出席が単位取得に重視されるようになったことも出席率向上における理由の 1 つではないだろうか。普段は出席せずとも最終授業で行われる授業内試験で好成績を修めれば単位取得可能であった授業も，今回は出席管理アプリ「respon」への投稿や課題を提出したことで授業出席と見なす科目も多かった。そのため，学生の授業出席率の向上が可視化されたことが考えられる。

6. おわりに

3 年生のゼミ指導の一環として取り組んだ調査として，山崎航君，小田佳織さん，長谷川さくらさんの 3 名は，多くの時間を費やして，自主的・積極的に取り組んできた。3 名の労をねぎらいたい。

多くの先生方の協力によって，有意義な調査結果を得ることができた。回答いただいた先生方からは，主に設問の不備について丁寧な指摘や提案をいただいた。指摘を読んで，自分の不明に気づくばかりである。それもこれも指導者としての小職の力不足である。さらに，今後に向けて，お気づきの点があれば，ご指摘いただければ幸いである。もっとよい調査ができたはずだという欲もあるが，あくまでゼミの一環として学生主体での調査と分析を重視した。もちろん，本稿の第一の責任は植村にある。

当初，想定していた以上に，大がかりな調査になり，アンケートに協力いただいた関係者への報告についてどのような手段をとるか気になっていた。そこに思いもかけないことに情報科学研究所オンライン授業セミナー（IIS-OLS）で発表することができた。さらに所報掲載の機会をいただけたことに感謝申し上げたい。

[1] 専修大学ウェブサイト「オンライン授業に関するアンケート調査」実施報告について（7 月 24 日公開）
https://www.senshu-u.ac.jp/news/nid00011358.html

【謝辞】

ご多忙の中，アンケートの回答，学生へのアンケート回覧にご協力いただきました先生方，学生，関係者一同に感謝申し上げます。この場を借りて深くお礼申し上げます。